

続くコロナ禍の中、本校として残念な決断をすることになりました。10月に実施予定だった研修旅行（中3、高2）を3月に延期しましたが（旅行先は中学校が沖縄、高校は沖縄と東北へと変更）、緊急事態宣言が発令されるなど感染収束の気配はなく、3月段階での実施も困難であろうという判断をし、中止としました。研修旅行は学校生活において意義深い行事の一つ。中止は非常に残念です。どこかの段階で何かしら代替になるものが模索できればと願っています。

## “いのち”を感じる時

新年、年賀状の遣り取りを通じて日頃疎遠となっている方への挨拶をしたり、安否を気遣ったりすることが恒例となっています。今年の年賀状は、いつになく前向きなと言っては語弊があるかもしれませんが、コロナ禍を反映してか、元気や勇気を鼓舞するような文言が垣間見られるものが多かったように思います。

その中で、毎年楽しみにしているものがあります。20年前ぐらいにお世話になった東京のある学園のT先生との年賀状です。T先生は子どもの「読書」の大切さを説かれる先生で、読書指導について多くの知見をもっておられます。T先生からの年賀状をいただき、心が熱くなりました。無断ですが、ご紹介させていただきます。

心穏やかな年となりますように  
令和三年 正月

### “いのち”を感じる時

赤んぼうが、パパママの一本の指を、  
掌で力強く握っているとき

園児たちの、さざめく黄色い声を聴く  
とき

介護や看護をする人たちの、真剣な顔  
つきと温かい眼差し

腰の曲がった翁、媪が、杖をつきなが  
らも懸命に歩いている姿

三月、土筆がもくもくと伸び上がって  
いるようす

満開の桜トンネルの下、桜吹雪の中を  
そぞろ歩くとき

入道雲が、見る見るうちにもりもりと  
沸き上がってくる時

夏の盛り、冷たい水が五臓六腑に染み  
わたる感覚

何とも言えない感覚が伝わってきます。T先生の視点を通じて感じられたものに合点がいくとともに、一つひとつの光景が鮮やかに浮かんでくるのです。どれもが躍動しているのです。年齢問

わず、職業問わず、自然の移ろい問わず、心臓の鼓動というか、脈打つ感覚がたまりません。

この一年間、否定的な言葉が横行するばかりです。自粛、制限、回避、我慢、恐れ、不安、疑心、嫌悪、偏見、差別などの数々。そして、仕方がない、残念だ、無理だ、延期（中止）に、などの常套句に結実。抗いようのない現実の最中にいるからこそ、鮮明な息遣いの場面に出会い、鼓動や脈打つ感覚に触れたときに“いのち”を感じ、生きているという実感が伴うのではないのでしょうか。

一年の初め、想いのこもった、清々しい言葉を頂戴いたしました。日々の生活の中で、ふとした景色を見逃さないようにしようと心に誓うことができました。T先生、感謝申し上げます。



床の間に生けられた、梅、木蓮、椿。蕾だった梅がこの日に合わせて一輪だけ咲いた。

1月19日（火）、高校3年生の「卒業茶会」が行われました。“鈴峯女子”最後の女子生徒たちが3年間学んだ茶道の集大成の授業でした。

茶道を通じて生徒たちは、おもてなしの心、挨拶などの礼儀の大切さ、他者とのコミュニケーションの基本である「間」の取り方、などを学びま

した。厳かな雰囲気で行われた「卒業茶会」。その生徒の姿をある先生が「キュートでパワフルに育った生徒たち。こんな一面は初めてかなあ」と。

私は、いつも生徒の一生懸命さに心打たれます。この茶会も同様でした。つい涙がこぼれそうになりました。生徒が必死になって挑み、緊張感漂う全力の姿、これもまた、私にとっての「いのち”を感じる時」と言えるのです。示し合わせたように一輪だけ咲いた梅の花と相まって…。

さて、みなさんにとって「いのち”を感じる時」とはどういった場面でしょうか？